

鹿嶋の の ご 神 幸



提灯まち
9月1日



9月1日・2日

お問合せ先
鹿嶋市観光協会 ☎0299-82-7730
http://www.sopia.or.jp/kashima-kanko/
鹿嶋神宮 ☎0299-82-1209
https://kashimajingu.jp/

【交通アクセス】
東京方面 ●車=東関東自動車道潮来I.C.から車で10分
●バス=東京駅八重洲南口から高速バスで120分
埼玉・栃木方面 ●車=圏央道大栗JCTから東関東道潮来I.C.
51号経由で30分 ●車=北関東自動車道水戸大洗I.C.
国道51号経由で50分

鹿嶋の祭見どころ情報

1日

時間	場所	内容
10:00~	各町内	乱曳き
15:00頃	神宮前大町通り	山車整列(5台)
16:00~	神宮前大町通り	大提灯奉納(14基)
17:00頃	角内交差点	山車集合(5台)
18:00~	〃	総踊り及びのの字廻し等
19:00頃	各町内	乱曳き
22:00迄	各町内	曳き止め



「のの字廻し」とは、重さ3~4トン、高さ7メートルにも及ぶ山車を向って左前の車輪を軸として、筆で「の」の字を書くように回転させるもので迫力満点です。山車上部の大人形があたかも能を舞う如く、ゆっくり回転させることが、上手とされています。

2日

時間	場所	内容
10:00~	各町内	乱曳き
13:00	角内通り集合	通し砂切り
13:15~	角内通り発各町内へ	役曳き
15:00	神宮前大町通り	還幸祭
15:30頃	神宮前大町通り発	各町内巡行し角内へ(17:00)
18:15~	桜町通り	年番引継
18:45発	桜町通り	年番送り後各町内乱曳き
22:00迄	各町内	曳き止め

役曳き巡行列順



本年度年番角内区山車を先頭に櫻町区山車・新町区山車・大町区山車・仲町区山車が揃って5町内を曳き廻します。



●提灯まち
9月1日
16:00~
20:00
(こども提灯)
14:00~
16:00
至潮来

●年番引継会場
9月2日 18:15~

山車の運行を執り仕切るのが「山車年番」で、今年の年番が、次年度年番町内にお伺いをたて引継ぐことを「年番引継」と言います。

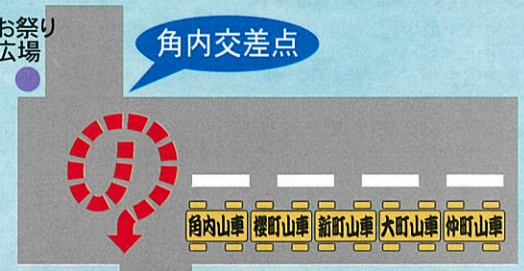
ご神幸山車祭案内図

役曳き山車順路 9/2 13:15~17:00
大提灯奉納コース 9/1



●総踊り 9月1日 18:00~

総踊り及びのの字廻し会場



●お祭り広場
●ホテル古保里

●役曳き山車集合
9月2日 13:00~
山車の乱曳きに対し山車(5台)が整列して曳き廻されることを「役曳き」と言います。



●還幸祭
9月2日 15:00~
行宮出御の御神輿が本宮へ還る祭典で、神幸祭を反す姿で奉仕されます。町内を巡幸して拜殿へ還御します。

●神幸祭
9月1日 20:00~
御神輿が輿丁奉仕者により捧持されて町内へ出御します。

鹿嶋の山車紹介

〔山車祭日時〕 九月一日・二日 午前十時

鹿嶋神宮神幸祭奉祝のため、五台の山車が曳き廻されます。その歴史は、安政四年（一八五七年）に大町・元治元年（一八六四年）に角内町の山車が作られたことに始まり、その他の山車がつ作られたのは不明ですが、文久三年（一八六三年）に仲町、慶應二年（一八六六年）に神野、明治四年（一八七一年）に櫻町、明治六年（一八七三年）に新町の山車が曳き出された記録が残されています。山車の曳き廻しには鳴り物（お囃子）が、必要です。その鳴り物を奏でている組織を下座連と呼び、町内とは異なる組織です。下座連は元々農村集落ごとに存在しており、かつて木滝地区にも下座連が存在していました。その集落ごとに行っていた里神楽・おひしやなどと融合して現在のお囃子となりました。

〔山車の解説（凡例）〕
 ①山車製作年 ②製作者氏名 ③人形製作年
 ④人形製作者 ⑤芸座名(地名) ⑥額の文字
 ⑦揮毫者

角内区山車

〔年番〕



武甕槌大神

- たけみかづちのおおかみ
- ①新造平成元年 ②篠塚良雄(潮来市建築業者)
 - ③平成元年 ④田島義朗(千葉県八千代市)
 - ⑤上町芸座連(潮来市)
 - ⑥敬神(けいしん)
 - ⑦鹿嶋神宮元宮司 東 實

櫻町区山車



水花咲耶姫

- このはなさくやひめ
- ①新造平成26年 ②田中正男(千葉県香取市)
 - ③平成26年 ④(株)京都科学(京都府)
 - ⑤源囃子連中(潮来市)
 - ⑥神随(かんながら)
 - ⑦鹿嶋神宮名誉宮司 上野貞文

新町区山車



聖徳太子

- しょうとくだいし
- ①新造平成4年 ②田中春男(千葉県香取市)
 - ③平成4年 ④古屋敷吉男(佐倉市)
 - ⑤祭好会鹿嶋芸座連(鹿嶋市)
 - ⑥和(わ)
 - ⑦鹿嶋神宮元宮司 東 實

大町区山車



塚原ト伝

- つかはらぼくでん
- ①昭和5年 ②川辺留吉(町内建築業者)
 - ③平成18年 ④川崎人形店 川崎勝久(さいたま市岩槻区)
 - ⑤牧野下座連(香取市佐原)
 - ⑥和楽(わらく)
 - ⑦漢詩人 織田鐵三郎

仲町区山車



天照皇大神

- あまてらすすめらのおおかみ
- ①新造平成5年 ②青柳義行(町内建築業者)
 - ③平成14年 ④人形師五代目綱季(熊谷市)
 - ⑤潮風會囃子連(潮来市)
 - ⑥神徳(しんとく)
 - ⑦鹿嶋神宮元総代 椎木有道

神幸祭

〔九月一日午後八時〕



九月の一日・二日は鹿嶋神宮のおまつりで、地元の中地区を中心に「ご神幸」という名称で親しまれています。神幸祭とは九月一日の夜八時に神様がおいでになることをいい、午後八時半過ぎには御神輿が與丁奉仕者により捧持されて町内へ出御となります。二日は楼門前の行宮で午前十時より行宮祭が、午後三時から選幸祭が行われます。一日二日には山車祭りが、一日夕刻には提灯まちが奉納されます。

還幸祭

〔九月二日午後三時〕



行宮出御の御神輿が本宮へ還る祭典で、神幸祭を反す姿で奉仕されます。町内を巡幸して拝殿へ還御します。表参道には山車五台が並べられ各町内役員以下全員が整列し、芸座は段物を演奏奉納して御神輿を奉送迎します。供奉員は、陣笠・陣羽織等の供奉の服装で、警護役の鹿嶋新当流・総大行事等は流服・隊服着用、参列者も大紋、その他指定の服装にて参列をします。

提灯まち

〔九月一日午後四時〕



大きな青竹に無数の小提灯を結んで繩を四方に引き一本の竹をおよそ二十人ほどで推し立てながら祭頭も高らかに神宮へ一歩一歩進みこれを銚子の鐺にして奉焼します。現在の行事を「提灯まち」と呼んでいます。以前は神幸祭としての御軍祭に銚子で舞を焚く祭礼行事がありました。そこへやがて提灯の市が立ちこれを購入い入れて奉納奉焼する行事が起ったのではないかと考えられます。元来「まち」とは特定の日々に人々が参集して忌み籠り夜を明かすことを言いますので、鹿島の神が御神幸される夜を迎えて提灯を点して忌み籠るという意味合いがあるわけです。江戸後期の文献をみますと、神職達が大小の神剣を抜き氏子も男は太刀、女は長刀などを火にかざす神事が一方にあつて、そこへ明かりを灯した提灯をたくさんつけた青竹の奉納神事が行われていました。

- 大提灯奉納数▶14基
- 大提灯奉納時間▶9/1 16:00から20:30
- こども提灯奉納時間▶9/1 14:00から16:00
- 大提灯奉納コース▶鹿嶋神宮第二駐車場～鹿嶋神宮境内まで
- 先頭大船津赤うちん奉納出発時間▶16:30

鹿嶋神宮 周辺 まちあるきマップ



鹿嶋神宮めぐり

1 大鳥居
 東日本大震災で倒壊した大鳥居に代わり、平成26年6月に竣工しました。神宮の森で数百年育まれた天然杉四本が使用され、その素朴で雄大な姿は震災復興のシンボルとして親しまれています。

2 楼門
 寛永11年(1634)、徳川頼房公が奉納したこの門は「日本三大楼門」の一つ。緑の中にときわ朱色が鮮やかです。なお「鹿嶋神宮」の扁額(へんがく)は東郷平八郎元帥の直筆によるものです。

3 本殿
 社殿は元和5年(1619)徳川秀忠公より奉納されたもので、桃山期の極彩色が華やか。本殿・幣殿・拝殿・石の間のいずれもが国の重要文化財の指定を受けています。社殿の背後にある杉の巨木は根廻り12m樹齢1,300年と推定されるご神木です。

4 鹿園
 園内に遊ぶ鹿たちは、「神のお使い」。現在の鹿は、鹿嶋から移された春日大社(奈良)の鹿の子孫を再び受け継いだものです。アントラードとは鹿の枝角のこと。「リーグ」鹿嶋アントラーズの名もここに由来しています。

5 奥宮
 慶長10年(1605)、徳川家康が関ヶ原の戦勝のお礼に本殿として奉納されました。二代将軍、徳川秀忠による社殿造営の際に現在の処に引き遷したもので、重要文化財に指定されています。

6 要石
 地震を起こす大なまの頭を押さえているといわれる霊石です。いくら掘っても全容は掘り尽くせないといわれ、「鹿島の七不思議」の一つにも数えられています。

7 御手洗池
 この池は、古くから神職のみそぎの場で、大人が入っても子供が入っても水面が胸の高さを越えないといわれ、「鹿島の七不思議」の一つとなっています。公園も整備され、市民の憩いの場になっています。

8 塚原ト伝の像
 宮本武蔵との「なべぶた試合」の話で知られる塚原ト伝(1489～1571)は、鹿嶋新当流の開祖。その偉大な功績を記した碑と銅像が剣聖塚原ト伝誕生五百年を記念して建立されています。

10 根本寺
 聖徳太子の開基と伝えられる寺で、仏頂和尚の禪の師と仰ぐ俳聖・松尾芭蕉も貞享4年(1687)にここへ月見に訪れています。その様子は「鹿嶋紀行」にも記されており、境内には「月はやし梢は雨を持ちながら」などの句碑も建てられています。

11 鎌足神社
 天智天皇に仕え、645年大化の改新を断行した藤原鎌足を祭る神社です。歴史書「大鏡」には、鎌足は鹿嶋神宮の鎮座する地でお生まれとあります。

七福神めぐり
 にこやかな表情の七福神の石像が通りに並んでいます。中には握手を求めようと右手を差し出しているものも。縁起のいい神様たちにごあいさつして回ると、福を招きます。

鹿嶋歴史めぐり

9 鹿嶋城山公園
 鹿嶋神宮駅から徒歩5分の距離にあるこの公園は、市民の憩いの場。北浦を望む場所には鹿嶋城跡の碑も建てられています。